



車内の金城学院大学

58限目

「医薬品化学」

「インフルエンザの薬はCGでデザインされた？」

〔酵素阻害剤〕

毎年冬になると流行するインフルエンザ。放っておくと体内でウイルスが増殖し重症化する危険な病気ですので、感染初期に薬によってウイルスの増殖を抑える療法がとられます。インフルエンザウイルスが体内で増殖するには、ウイルス自身が持つ「ノイラミニダーゼ」という酵素の働きが不可欠であり、その働きを阻害すれば増殖を抑えることができます。その薬の開発において活躍するのが、CG(コンピュータグラフィックス)。ノイラミニダーゼの立体構造を解析し、その働きを阻害するように結合する分子構造がデザインされているのです。このような薬は「酵素阻害剤」と呼ばれ、現在も様々な病気に対する薬がCGによって開発されています。このように、新薬の開発には様々な技術が応用されており、意外な技術が私たちの健康を支えてくれているのです。

薬の可能性を追求し、人々の健康を支える。それが薬学部 薬学科。

強く、優しく。



金城学院大学